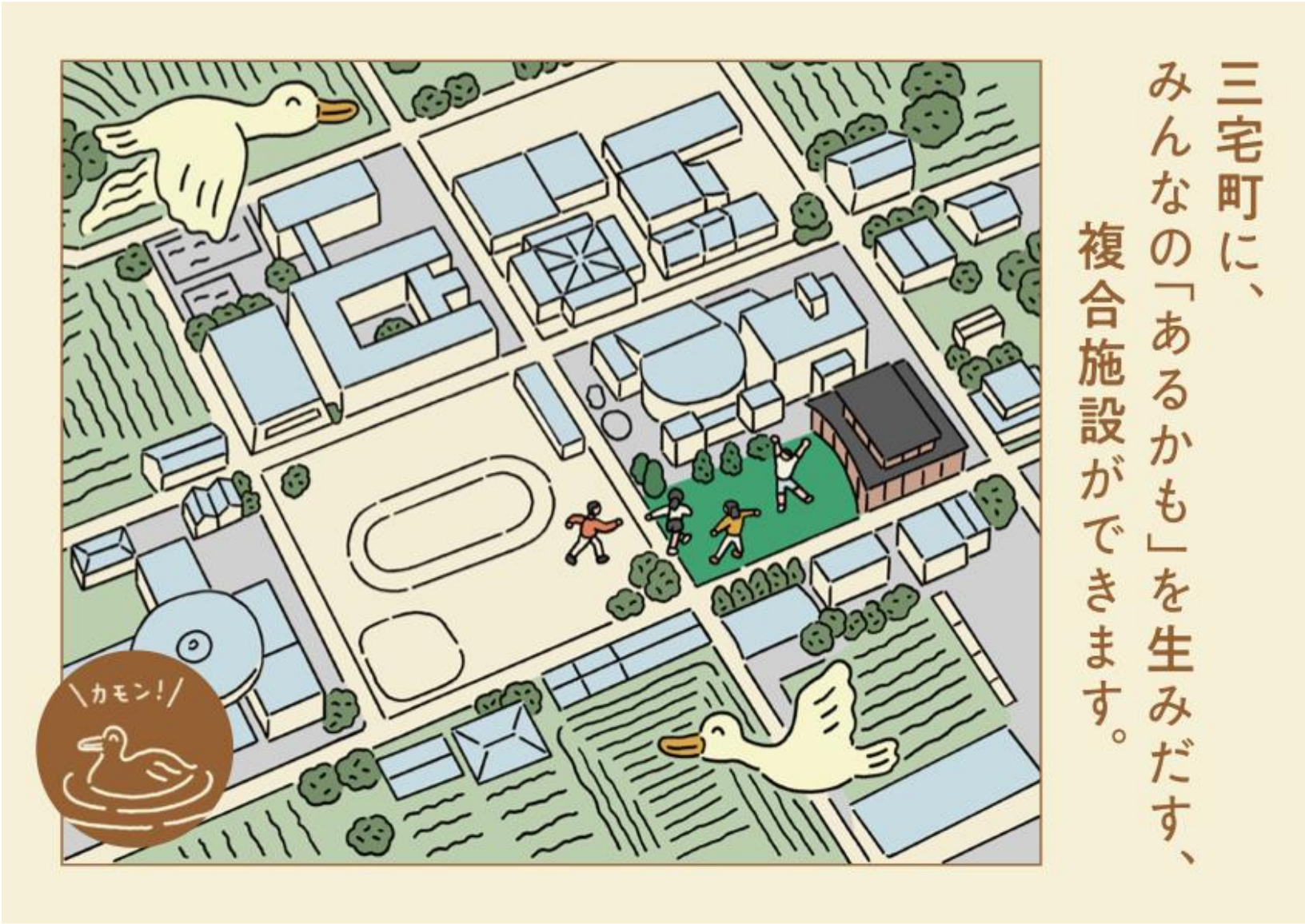
4

事例紹介と意見交換

【事例紹介】三宅町・MiiMoでの運営方針の議論



出典：三宅町交流まちづくりセンターMiiMo　建設前周知パンフレット

【事例紹介】三宅町・MiiMoでの運営方針の議論

複合施設で三宅町が変わるかも。

三宅町に新しく生まれる複合施設のコンセプトは、
多世代がつながり地域の魅力が創出される町民ひとりひとりの居場所。
まちの子どもたちを中心に、誰もが主役になれるまちづくりの拠点として
いくことで、複合施設で生まれるたくさんの「あるかも」が、まちのみんなの
「三宅町に住んでいてよかったな」の気持ちにつながることを目指しています。

複合施設が目指す3つの方向性

1. 子どもが生き生きと学び・暮らせる環境をまちぐるみで育む
2. それぞれの「やりたい」をまちの多様な魅力に拡げる
3. 「まちがよくなっている」と実感できるアクションを企画推進する

1 子どもたちがいつでも自由に楽しめるかも

「子どもが遊べるところがないんです。」「公園がなくて…」そんな声を聞きますが、大丈夫です。暑い日も雨の日も遊べる半屋外スペースや、図書コーナーなど、赤ちゃんからお兄ちゃんお姉ちゃんまで、子どもたちがいつでも楽しく過ごせる空間がたくさんできます。

2 まち全体でパーティができるかも

みんなで集まっておいしいものを食べたらもっと仲良くなれるはず。地元の食材を持ち寄って、料理上手なお母さんたち中心に、子どもたちも初めてのクッキングに挑戦したりして。家族で休日に参加できる楽しみが増え、まちの人に出会えます。

3 新しい活動やビジネスのチャレンジができるかも

ちょっとした打合せをしたいときや、試しにいろいろやってみたいときに、自由に使える活動の場があれば、新しいチャレンジにつながるかも。自慢の産品を展示販売したり、週末カフェも開くこともできる、「やってみよう」を応援するスペースができます。

4 ゆっくり時間が過ごせるかも

一人になりたいときもある。友達と語りたいときもある。そんな時間が過ごせるのも、まちの良さ。好きな本を読みながら、お茶をしながら、調べものしながら。自由に時間を過ごせます。

5 夜もわいわい集まれるかも

せめて21時くらいまで開いてないと、夜のまちが楽しめない。お仕事が終わってから家事がひと段落してから、みんなが集まれる場所になります。ナイトシアターだってできるかも。

6 これまで三宅になかったプログラムが楽しめるかも

三宅町ではたくさんの活動があるし、いろんな特技を持った人がいます。そんな人たちが先生になったら、プログラムはどんどん拡がります。名物プログラムが育てば、町外からも人が集まってくるかも。

7 私にもできることがあるかも

はい、あります！ ちょっとでも「面白そうだな」と思ったあなた、何かまちでやってみたいあなた、一緒にやってみましょう！ みんなが関わって、まちを知り、考えるきっかけになるような活動を育みたいと考えています。

出典：三宅町交流まちづくりセンターMiiMo　建設前周知パンフレット

【事例紹介】三宅町・MiiMoでの運営方針の議論

どんな建物になるの？

2019年春、全国から応募された30余りの提案の中から、
みんなの「あるかも」を形にしてくれる設計プランが選ばれました！
※応募時の設計プランをもとに紹介しています

教えて！　設計者さん

皆さん自身が企画した催しが、朝から晩まで何か行われていて、役場に行く途中や下校中、仕事帰りに寄ってみたら長居してしまった！　という、楽しい日々の暮らしの中心になればと思っています。そんなことを実現するため、建物の1階から3階に、多目的に使える場所、一人でゆっくりしたくなる場所、皆でわいわいと出来る場所を散りばめています。そして広場に開いた大屋根の下に、そんな楽しい毎日の風景が町に滲み出てくることを期待しています。

ジオ・グラフィック・デザイン・ラボ
一級建築士事務所
前田茂樹 さん

SPEC
構造：鉄骨造
階数：3F
延べ床面積：約1,500㎡

まちと施設をつなぐ大階段

三宅町に今までなかった大きな階段は、みんなが集まった時の集合写真スポットになったり、ベンチになったり、広場イベントの客席になったり。

ゆったり安心 子育て支援ルーム&テラス

安心して赤ちゃんも楽める。ゆっくり赤ちゃんと絵本が読めたり、屋根上のテラスは安全に遊べてパパママも安心 。

子どもたちが、もっと三宅を好きになる 多機能活動ルーム（学童・放課後スペース）

学童の子どもたちも、そうじゃない子どもたちも、みんな一緒に遊べる楽しい仕掛けがいっぱい。

パソコン持って気軽に寄れる コワーキングコーナー

打ち合わせもできるシェアデスクと、集中できるブース型のデスクが選べる。フリーWi-Fi・コピー機を完備。

のんびりできる 図書コーナー・ルーム

ゆったりくつろぎながら本が読める。1階と2階はガラスのテーブル越しに見降ろしたり見上げたり、楽しくつながれる。

大きな軒先のある広場

役場の前が大きな芝生広場に。お祭りやイベント、ゆっくり本を読んだり、ピクニックだってできる。

お腹と心を満たす フリーキッチン

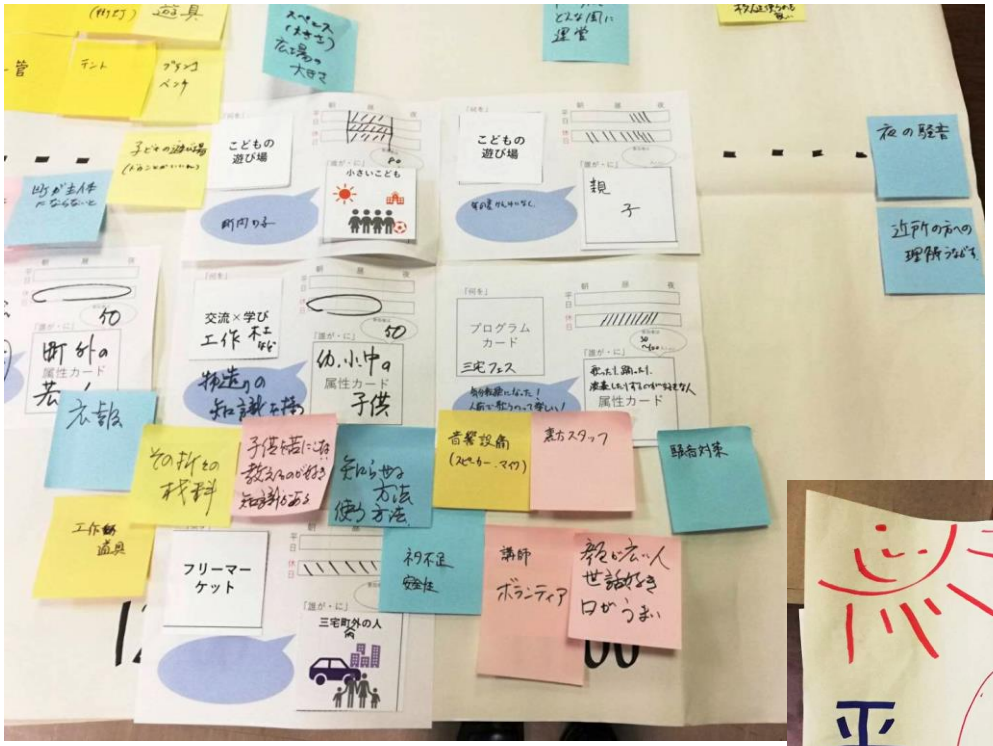
広場に面した大きなキッチン。
まちのみんなが自由に集まって料理を楽しむことができる。

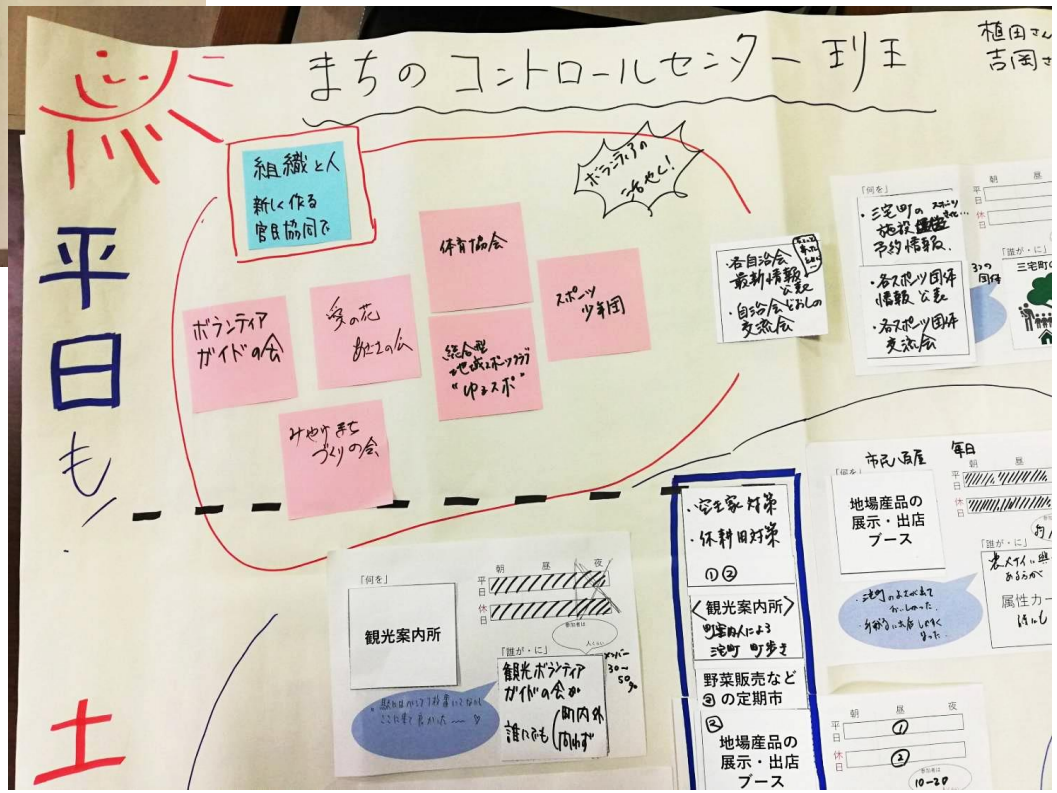
ひろびろで使い方自由 多目的ルーム

通りからも見通せて開放的。仕切り扉も舞台も椅子も移動可能で、使い方はみんなの自由自在！　最大200人まで集まれる。

出典：三宅町交流まちづくりセンターMiiMo　建設前周知パンフレット

【事例紹介】三宅町・MiiMoでの運営方針の議論





出典：三宅町交流まちづくりセンターMiiMo「三宅町 複合施設 運営方針　さがす、みつける、あるかも　町民プロジェクトチーム会議　平成30年11月」より

【事例紹介】三宅町・MiiMoでの運営方針の議論

2. ソフト・運営上大切にしたい6つのポイント

複合施設の将来像を実現するために、ソフトや運営上で大切なことは、次の6つのポイントです。

複合施設の将来像

多世代がつながり 地域の魅力が創出される 町民ひとりひとりの居場所

三宅町複合施設の将来像の実現にむけて、運営上大切にしたい6つのポイント

①いつも開いている

●平日・休日ともに開いている
●朝から夜まで開いている
（朝は8：00頃～モーニングができて、
夜は21：00頃まで仕事もできる）

②定期的・継続的に活動が行われている

●毎週末など定期的に活動を展開する
（マルシェ、フリーマーケット、野菜市など）
●小さくても長く続けられる活動を継続的に展開する

③いろんな世代の楽しみがある

●いろんな世代がそれぞれの感性で楽しめるものがある（お年寄りに人気の講座、こどもに人気の体験など）
●時間帯・曜日によって使い方が変わる
（朝や平日はお年寄りが健康づくりに使う、
夜は仕事帰りの人が休憩する、
休日はこどもや親が集まるなど）

④まちの情報が集まっている

●WEBや紙媒体などにまちの情報を一元化する
（今月のイベント、お知らせ、予約情報、各字の公民館で行われているプログラム情報など）
●情報が届くように工夫する
（デザインのいいチラシを広報誌にいれる、
WEB情報をプリントして壁新聞にするなど）
●予約はネットと窓口で対応し、幅広い世代にとって使いやすくする

⑤まちの人・団体がネットワークしている

●地域の大人が得意分野を活かした教室を開く（工作教室や料理教室）
●ボランティアの活動の場を広げる
●字ごとの活動を町全体に広げる
●既存団体の情報共有や交流の場にする

⑥子どもがもっと三宅町を好きになる

●オープンするまでも、オープンした後も、子どもたちが関わる仕掛けをつくる

出典：三宅町交流まちづくりセンターMiiMo「三宅町 複合施設 運営方針　さがす、みつける、あるかも　町民プロジェクトチーム会議　平成30年11月」より

【事例紹介】三宅町・MiiMoでの運営方針の議論

3. ハード・空間を設計する上で大切にしたい6つのポイント

複合施設の将来像を実現するために、ハードや設計上で大切なことは、次の6つのポイントです。

複合施設の将来像

多世代がつながり 地域の魅力が創出される 町民ひとりひとりの居場所

三宅町複合施設の将来像の実現にむけて、設計上大切にしたい6つのポイント

①使い方によって自由にスペースを変形できる

- 広々とした空間を自由に仕切って使うことができる
- 環境の変化に対応できる（暑さ、寒さ、雨天など）

②開放的で行き来しやすい

- 施設の外から、気軽に入りやすい
- 施設の中に、仕切りがない

③いろんな活動の拡がりを支える設備がある

- もっと町民が交流できる
- もっと本に親しめる
- もっと仕事がしやすくなる
- もっと産業・農業について知れる
- もっと町民の活動がさかんになる
- もっと屋外で活動しやすくなる
- もっとこどもが元気に遊べる
- もっと健康になれる

④まちの人と出会う場がある

- 三宅町の様々な人と知り合える（生産者、観光ガイド、など）
- コーディネーターがいる（三宅町内、町外との交流）
- 子育て世代が集まりやすい場である

⑤居心地がいい

- ええ感じのソファがある
- ちょっとお茶ができる
- 気軽に休憩できる

⑥地域の魅力を創出するデザイン

- デザインに革を取り入れる
- 古墳を見る展望スペースをつくる
- 広場を中心とした一体的な景観をつくる
- 空から見た形も意識する

出典：三宅町交流まちづくりセンターMiiMo「三宅町 複合施設 運営方針　さがす、みつける、あるかも　町民プロジェクトチーム会議　平成30年11月」より

【事例紹介】三宅町・MiiMoでの運営方針の議論

3. ハード・空間を設計する上で大切にしたい6つのポイント ～いろんな活動の拡がりを支える設備～

町民のいろんな活動の拡がりを支えるために、細やかな設備が充実していることが大切です。

●もっと町民が交流できる

・みんなで料理ができるような調理スペース、調理器具
・好き勝手に書けるホワイトボードや壁
・ 得意な人に教われる木工教室用の工作道具、材料
・情報が共有できる掲示板
・三宅町のグローブの余り生地などで作ったおもちゃ
・みんなが使えるテーブル、いす

●もっと本に親しめる

・こどもから大人まで楽しめる本
・本棚
・気軽に買える自動販売機
・ちょっとお茶ができるコーナー

●もっと仕事がしやすくなる

・デスクとチェア
・ええ感じのソファ
・Wifi
・パソコン
・コピー機
・プロジェクター

●もっと産業・農業について知れる

・三宅町の特産品が分かる展示スペース

●もっと町民の活動がさかんになる

・マイクとスピーカーなどの音響設備
・フリーマーケットにも使えるテントや台車
・２４時間誰でも使えるトイレ
・大型テレビ
・カメラ

●もっと屋外で活動しやすくなる

・ 水道
・ 電気（街灯）
・ 暑さ対策（ミスト、屋外用クーラー）
・ ちょっと座れるベンチやスペース
・ 職員の方の休む場所
・ 喫煙所

●もっとこどもが元気に遊べる

・ 座れるベンチやスペース
・ブランコなどの遊具
・土管や小川、噴水などの設え
・ 芝生
・シャワー

●もっと健康になれる

・ 健康遊具
・ 講師がいなくても体を動かせる教材ビデオ

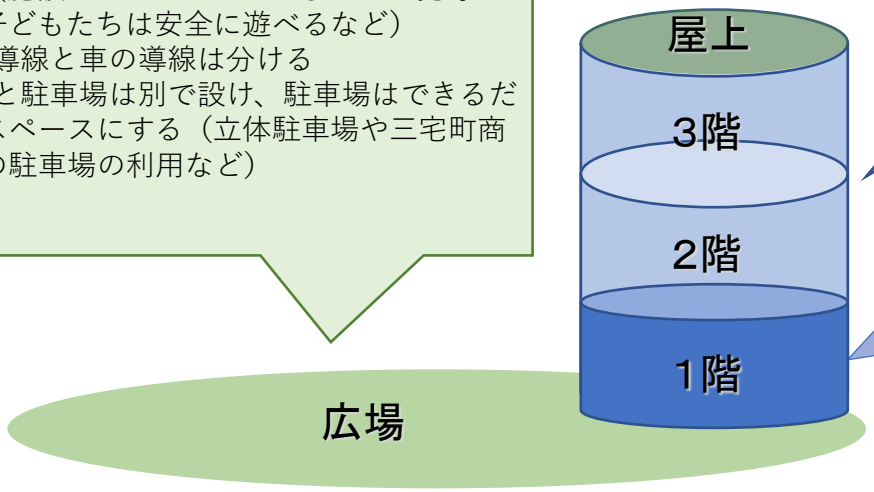
出典：三宅町交流まちづくりセンターMiiMo「三宅町 複合施設 運営方針　さがす、みつける、あるかも　町民プロジェクトチーム会議　平成30年11月」より

【事例紹介】三宅町・MiiMoでの運営方針の議論

4. 運営方針実現のために機能配置で配慮すべきポイント

私たちが考える運営方針を実現するために、複合施設は階ごとに使い方の目的やテーマを決めて機能を配置すること、広場と建物はつながっていてデザイン的にも一体感があることが重要と考えます。

●　広場：施設と一体的で、安全に遊べる場づくり
- 施設と広場はつなげて、デザイン的にも一体感を出す
- 広場は子どもたちが遊べるようなスペースにする（施設のテラスなどから子どもを見守れる、子どもたちは安全に遊べるなど）
- 人の導線と車の導線は分ける
- 広場と駐車場は別で設け、駐車場はできるだけ小スペースにする（立体駐車場や三宅町商工会の駐車場の利用など）



●屋上：屋上を活用した憩いの場づくり
- 雨でも遊べるように屋根を設置する。
- 屋上庭園にする。

●２・３階：仕事や学びの場づくり
- 学習室や静かな図書スペースなど仕事や学習に打ち込める場。
- 学童のスペースを十分確保する。

●１階：人が集まる場づくり
- 外からも施設内の様子が見える。
- 軽食を楽しめるカフェなどがある。
- 図書スペースは目的に合わせてつくる（開放的なスペースと静かに読めるスペース、本のカテゴリーごとなど）
- 調理室で作ったものが販売できるように、飲食店営業や菓子製造業の許可がとれるようなつくりにする。

出典：三宅町交流まちづくりセンターMiiMo「三宅町 複合施設 運営方針　さがす、みつける、あるかも　町民プロジェクトチーム会議　平成30年11月」より

【事例紹介】三宅町・MiiMoでの運営方針の議論

出典：三宅町交流まちづくりセンターMiiMo（https://www.miimo.jp/）

具体の取り組みから施設のあり方を考える！

1. やってみたい・あったらいいなと思う取り組み・プログラムを具体的に出す！
2. ❶を実現するために必要なもの・ひと・仕組み、ハードルを出す！
3. グループワークの内容を全体共有

！必ず目指すところ・運営の目的につながるかをチェック！

野洲川MIZBEステーションの目指すところ

市民とともにつくる、
人と自然の好循環を育む
『学び』の拠点

運営の目的

〈目的１〉人と情報が集まり多様な活動の輪を広げる
〈目的２〉自然や防災、スポーツを通じて学び次世代を育てる
〈目的３〉ここにしかない魅力がありまちの内外から人が集まる

意見交換　グループワーク❶

1　やってみたい・あったらいいなと思う取り組み・プログラムを具体的に出す！

各自でワークシートに記入
1プログラム1シートでつくる！
複数シート作ってもOK！

模造紙に貼り付け
グループ内で共有

（ワークシート記入例）

「誰が」
〇〇企業と連携

「誰に」
小学生（高学年）

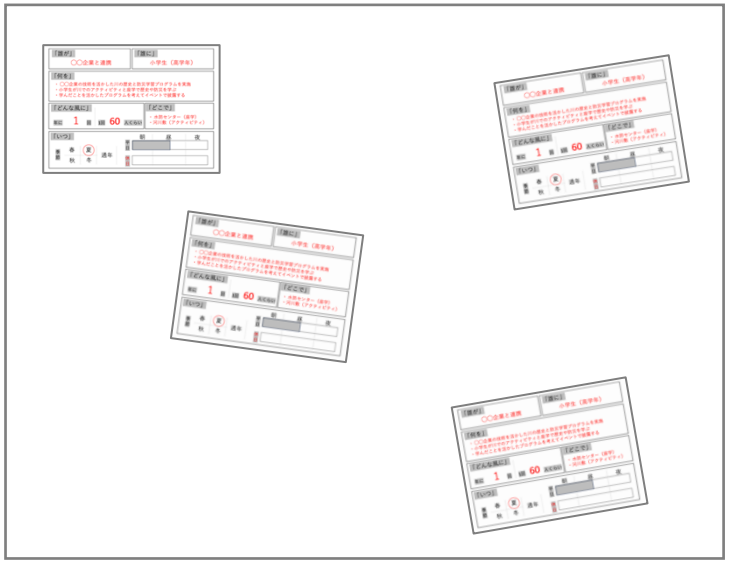
「何を」
・〇〇企業の技術を活かした川の歴史と防災学習プログラムを実施
・小学生が川でのアクティビティと座学で歴史や防災を学ぶ
・学んだことを活かしたプログラムを考えてイベントで披露する

「どんな風に」
年に 1 回 1回 60 人くらい

「どこで」
・水防センター（座学）
・河川敷（アクティビティ）

「いつ」
季節：春 / 夏 / 秋 / 冬 / 通年

	朝	昼	夜
平日			
休日			



【参考資料】24年11月ワークショップ結果

2 ❶を実現するために必要なもの・ひと・仕組み、ハードルを出す！

❶で出した各プログラムの実現に向けて
必要なもの･ひと･仕組み／ハードルを付箋に書き出し
グループ内で共有

もの	ひと	仕組み 工夫	ハードル 課題
設備や備品など	人材、グループなど	実現のための 仕組み･工夫	実現に向けた課題 ハードル

3 グループワークの内容を全体共有

1グループ･5分でグループワークの内容を発表